

平成30年度 第3回下野市地域公共交通会議 会議録

	平成31年1月30日(水)午後2時00分～午後3時25分
開催場所	下野市役所2階 203会議室
出席者	長田委員(会長)、若林委員、山本委員、小口委員、 渡邊委員、稲見委員、高瀬委員、関口氏(栗田委員代理出席)、鈴木氏(益子委員代理出席)、長瀬氏(黒岩委員代理出席)、矢吹委員、 塩田委員、山水氏(保坂委員代理出席)、荒川委員、鉢村委員
欠席委員	山田委員、大島委員、小矢島委員、川中子委員
傍聴者	1名

次第

1. 開会
2. 会長あいさつ
3. 議題
  - (1) 議事録の確認について
  - (2) 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価について
  - (3) 小学生向け公共交通に関する副読本について
  - (4) 1市2町公共交通広域ネットワークについて
  - (5) 今後の予定について
  - (6) その他
4. 閉会

○開会

(会長) ○会長挨拶

本日は2番目に地域公共交通確保維持改善事業・事業評価という補助の関係で重要な案件がある。また、副読本のことなどあるので、皆様の忌憚ないご意見を伺いながら進めていきたいと思う。

(事務局) 資料確認

(会長) 会議成立報告

議事に入る前に、議事録署名人を選任する。

名簿No.4番 山本様、名簿No.18番鉢村様のお二方をお願いしたいと思うがよろしいか。

(議事録署名人決定)

## 議題 1 【議事録の確認について】

### 事務局説明

時間の都合上、校正等ご指摘箇所があれば、2月12日(火)までに事務局まで連絡をお願いします。議事録の調整については会長と事務局で行うのでご了承ください。

(会長) 2～3分程度時間をとるので委員の発言が正しいかどうか見ていただきたい。

(会長) 他にお気づきの点があれば、2月12日(火)までに事務局にご連絡をお願いします。

## 議題 2 【地域公共交通確保維持改善事業・事業評価について】

### 事務局説明

#### ●質疑

(会長) 別添 1⑥とポンチ絵の今後の改善点の「下野市地域公共交通総合連携計画」の“「”が抜けているので修正するようにお願いします。

(委員) 今年度新規利用登録者数は実績としてどのくらいあったか。

(事務局) 4月に入ってからの新規登録人数は400人強である。

(委員) 新規登録者が400人強とのことだが、実際の利用者数及び前年からの増加率を教えてください。

(事務局) 本日お配りした資料では利用人数が21,649人、昨年資料では22,544人で、前年比96%。南河内は若干増えたが、石橋・国分寺が反対に若干減っているという状況となっている。

- (委員) 増減の理由は分析しているか。
- (事務局) 石橋・国分寺地区の若干の減少については、定期的に週 1～2 回乗っていた数人の方が減ったことによるものが考えられる。  
南河内地区については、以前、ふれあいサロンに通うためにデマンドバスを利用していた方が専用のバスを使うようになったことで、それまで重複して乗れなかった方が、デマンドバスを使えるようになり、少しずつ利用者が増えてきたのではないかと考えている。
- (委員) 今後目標に近づけていくために、事業の今後の改善点としては平成 32 (2020) 年度の網形成計画策定にあたり平成 33 (2021) 年度以降の内容の見直しということになっているが、ここ 1～2 年で短期的に成果が出るような取り組みは考えているか。
- (事務局) 1～2 年で早急にというものでは、具体的な取り組みは考えていない。しかし、計画等に合わせていろいろ研究しながら資料を出し、会議の中で検討していければと考えている。
- (会長) 運行事業者の関東交通の方がいらっしゃるので、実際に運行していて何か気になった点があればお願いします。
- (委員) 利用の時間帯が重複してしまうことはどうしても避けられないので、運行事業者としても何か対策をとれるものがあればと考えている。  
通院のために利用する人が使う時間帯が重複するということが非常に多い。しかし、病院に行く時間をずらしてくださいと言うのはなかなか難しいので、そこをどう改善していくか、運行事業者としても取り組んでいきたいと考えている。
- (委員) 定量的な目標の数字の根拠はあるのか。
- (事務局) 「下野市地域公共交通総合連携計画」で目標値を設定している。平成 29 年度の目標値は 35,400 人で設定しており、年間で運行日が 294 日なので、これらに基づいて 120 人以上と設定している。

- (委員) 下野市の住人の移動を3台の車で運行する数量や、実際の利用者の人数等を加味して考えた数字ではないのか。
- (事務局) 昨年度の申請時に実数に近いもので考えたが、連携計画で目標値を設定しているのだから、申請としてはそれに合わせるべきではないかとのご意見をいただいたので、連携計画に合わせて目標値を設定している。
- (委員) 実際の運行可能な人数というのはだいぶ大きな数字になると思う。  
目標からすると一台当たり4人以下になってしまうので、少し整合性がとれないのではと考えた。
- (事務局) 現在1台当たり平均乗車人数が3.4人なので、それに合わせて目標値を設定すると値がもう少し低くなる。  
先ほど申し上げたとおり、昨年度の申請時の当初は、委員のおっしゃったように計画と実際の数字がかい離してしまうので、値を下げて目標値を設定したところ、委員から、計画に基づいた数字で申請すべきではないかとのご助言をいただいた経緯もあるので、今年度も同じ形で進めているとご理解いただきたい。
- (会長) 目標達成状況のB判定というのは、基準があると思うのだが、何パーセントから何パーセントの時がB判定なのか。
- (事務局) 今手元に資料がないので、確認して回答する。
- (会長) こちらで事業評価を提出したいと思うが、よろしいか。

〈承認〉

### 議題3【小学生向け公共交通に関する副読本について】

事務局説明

栃木県交通政策課説明

(会長) 「利用できるバス路線」に下野市のデマンドバスが入ることになる。小学2年生の生活科の授業で配って使ってもらっているもの。無料券の対象に下野市を入れるには地域公共交通会議の承認が必要とのことだが、よろしいか。

●質疑：なし

〈承認〉

#### 議題4【1市2町公共交通広域ネットワークについて】

事務局説明

●質疑

(委員) 前回の公共交通会議で、運行するのは2系統と出ていたのだが、そのことについて確認をしたい。

また、宇都宮のLRTをはじめとして、公共交通の利便性を高くしないといけないという事はよく分かるし、その意味でも生活するうえで良いことだと思う。運行内容については、当然実証運行しながら、これから見ていくのだろうけれど、停留所等の利便性なども含めて協議されているのかということ伺いたい。

(事務局) 前回の公共交通会議でお示した2系統というのは、石橋駅を起点として石橋～上三川町方面のものと、石橋駅から文教を通り、おもちゃのまち駅から獨協医大へ向かうものの2つの系統ということでご説明した。県の協力を得て事業者を選定しているところではあるが、停留所については極力現在設置されている民間の停留所を使わせていただく予定である。

下野市内に現在13ほどの停留所があると思うが、運行事業者が決まれば、ノウハウを伺い、案ではあるが全体で33くらいの停留所を置くことを考えている。

実証運行を実施していく中で、国や県、関係団体のご指導をいただきながら、変えていくべきところは変えていく形になると考えている。

(事務局) 1市2町で調整しながら進めているので、はっきりとはご報告できないこともあることをご理解いただきたい。

(委員) この話は、今後公共交通会議の中で議題にするべきことか。それとも別に協議会ができて話を進めることになるのか。

(事務局) 1市2町で協議をしてきたのだが、今後もこの場で報告しながら、1市2町のなかで進めていく予定である。この交通会議の中で、随時進捗状況等を報告していきたいと考えている。

(委員) 来年度には実証運行という形ではあるが、実施するという認識でよろしいか。

(事務局) 新年度中には実証運行を実施できるように1市2町で進めている。

(委員) 広域バスということで、ガイドラインはまだできていないと聞いている。ガイドラインに沿って進めるということで、協議を進めてきたと思うのだが、その際にはぜひ情報をいただきたい。何故かという、バスが走るとなるとタクシーを利用されていた方もバスに乗ると影響が出るので、情報提供、もしくは勉強会という形でやるのであれば、タクシー事業者も含めて実施していただきたい。

(事務局) 情報提供ができるものについては、随時提供していきたい。1市2町での協議状況については、その他にタクシー協会も加入していると思うが、県の交通会議等で報告等していく形になる。

## 議題5【今度の予定について】

### 事務局説明

#### ●質疑

(委員) 4月からの網形成計画の策定で、4月上旬に会議があるということだが、公共交通会議として開催される会議か、それとも活性化協議会としての会議か。

(事務局) 現在の委員構成で、公共交通会議という形で開催する予定である。

(委員) 網形成計画の策定にあたって活性化協議会を立ち上げないのか。

(事務局) 下野市地域公共交通会議は、委員構成が活性化協議会の委員構成の条件を満たしているので、現状のまま協議を進めても問題ないことを確認している。

(会長) 鉄道事業者が委員に入っていないが良いのか、確認しておいてほしい。

#### 議題 6【その他について】

(事務局) 平成 30 年度会議の中で委員の皆様にご意見をいただいたものについて、5 月までに情報収集・整理のうえ、新しい形成計画の課題に反映させ、策定していきたいと考えている。関係団体に意見等照会させていただく場合があると思うので、ご了解いただきたい。

次回会議は 4 月上旬を予定している。

今後、この形成計画を策定するのはもちろんだが、現在運行しているデマンドバスをどうしていくかという問題についても計画の中で併せて検討していかなくてはならないと考えている。

今回提示したスケジュール案については来年度分しか出ていないが、デマンド交通をどうするかということに関して、2020 年 10 月には決定させなくてはならないという一つの区切りがあるかと考えている。今運行している 10 人乗りのワゴン車についても、既に 7 年走っているもので、耐用年数の問題も出てくる。1 台当たり何人乗っているか、平均で何人乗っているのかという考え方からすれば、1 台当たりの乗車人数が平均 3.7 人では、現状の 10 人乗りのワゴン車が必要か、実際に普通乗用車にした場合、もっと多くの人を運べるのではないかと、台数を増やす等のことを考えていかなければならない。

今のデマンドバスの旧行政区で分けているエリアについても、いかなものなのか。下野市の状況を分かっている方からすれば、鉄道で旧町が分断されている部分がある。鉄道の東に国分寺が入り組んでお

(事務局) り、西に南河内が入り組んでいる。そのような問題を解消していくことによって、もっと効率の良い運行ができるのではないかとということも考慮していく必要があると考えている。

先ほどの広域での公営バスだが、デマンドバス運行当初より、住民の皆様から、獨協医大や上三川病院まで行きたいという要望が出ていた。デマンドバスの運行事業者からは、1時間の間にそこまでを往復するのは難しいという話があったなかで、今回広域バスを運行させる案が挙がった。公共交通を考えていくうえで、交通空白地域をどうするか、交通弱者の人たちの足をどうするかということは、最初に考えないといけないことである。広域バスはその上での背骨の部分、太い線の部分になる。そこから横へ出ているのがデマンド交通であり、忘れてはいけない民間のタクシー事業者の皆様である。そういうものを考慮に入れながら、今後は、市において、多くの方が外に出て、用事が足せるという環境を形成していかないといけないという協議を皆様にお願ひしたい。

公共交通全てがまちづくりの一環であり、外せないものだと考えている。来年度は5回の会議を予定しているが、皆様のお知恵を拝借しながら、下野市民に沿ったより良い公共交通を形成できればと考えているので、ご理解と忌憚のないご意見をいただきながら作っていききたい。

デマンド交通の運行については、途中でやめるわけにはいかないといいところもあるので、それをまずご理解いただいたうえで、2020年度の10月までにはそれをすべて作り込んでいきたいと職員全員考えているので、お汲み取り頂き、ご協力をお願いしたい。

(会長) デマンドバスや網形成など同時進行で進んでいく。まちづくりの一翼を担う部分なので、皆様の忌憚ない意見をいただきながら進めていきたい。

(委員) タクシー協会としては、タクシーというものは面的に動いたり機動性があるというのが特徴なので、できるだけ公共交通という立場からいろいろな協力をしていきたいと思うので、何かあれば声をかけていただきたい。

(会長) 以上で本日の議題は終了とする。



閉会